

桐鈴会

第79号

平成23年9月15日発行

発行責任者

社会福祉法人 桐鈴会

理事長 黒岩 秩子

南魚沼市浦佐 5142-1

電話 025-780-4118

FAX 025-777-3731

e-mail

suzukake@rose.ocn.ne.jp

http://www17.ocn.ne.jp

~tourei/

桐鈴会夏祭り、そして水害

桐鈴会理事長 黒岩 秩子



七月二九日は、恒例の桐鈴会夏祭りでした。一二年間、毎年朝早くに支援者の皆さんが来て、やぐらを組んでくださるのですが、今回初めてそれができませんでした。前日から、雨だということが分かっていたからです。実際、朝は大雨で、とても外で祭りができるとは思えませんでした。それでも入居者の皆さんが楽しみにしておられるので、屋内でできるだけのことをしようということ、準備を始めました。



大好評！ 広田施設長のウインナー

が評判で、今年は、「手作りウインナー」が目玉でした。広田セ

ツ子鈴懸施設長が、前日、お友達と二人で腸詰を作りました。さつそくつまみ食いしたら、おいしいこと！ 私は、普通のウインナーはほとんど食べたことがないぐらい、好きではないのだけど、保存料などが入らないウインナーって、こんなにおいしいのかとびっくりでした。おにぎりや漬物、焼きそば、たこ焼き、うどん、枝豆（入居者が隣の畑で作ったもの）、クレープ、飲み物も各種取り揃えています。ステージへの出し物もたくさんあって、入居者の歌とかに交じって、地域の方からの出し物も。今年初めて参加する障がい者のグループホームひまわりの三人の入居者。終りに近くなつてから、私のあいさつでは、この方々を皆さんに紹介し、その世話人や、鈴懸に新しく入った職員なども紹介しました。屋内だけでと言っていたけど、夕方には、雨も小ぶりになつてきて、近所の子どもたちがぞろぞろ集まってきました。子どもたちの目玉はゲーム。矢を投げて当たったものがもらえるのです。五〇円なのだけど何



思わず目を見張った、「ほのぼの」貝瀬さんの歌と踊り

回もやる子があります。そして最後は恒例のくじ引き。商品は、トイレットペーパー、缶ジュース六本、袋菓子などみなポピュラーなものばかりなのですが、自分が持っている番号札が読み上げられるかどうか、一瞬シーンとなるのです。私が箱の中から取り出して番号を読み上げます。当たった人はそれはそれはよろこんで、いろいろなポーズをとって喜びを表現してくれます。今回一番うれしかったのは、「ひまわり」の入居者が、二人もこれに当たったということでした。余興には、毎年来てくださっている太鼓の滝澤父娘のお二人この方々の太鼓の音が祭りを高らかに宣言してくださいます。もう一つ飛び入りは、萌気会デイスービス「ほのぼの」の職員貝瀬孝子さん。「あの人だあ

れ？”とひそひそ話が聞こえる
なか、頭に花飾りをつけてワン
ピース姿でうたってくれたのは、
「真っ赤な太陽」。藪神地区の
「秀峰会」のみなさんによる踊
り、ここには、ヘルパーステー
ションの職員小幡も入っていま
した。

翌日は、入居者の皆さんが
口々に「昨日は楽しかった」と
言ってくれて、職員たちもやり
がいを感じます。認知症のグル
ープホームの皆さんは、何やら
興奮して、その日はいろいろと
変わったことが起きていたよう
でした。一〇一歳の方が、しゃ
べり通ししゃべっていたりとか。



水害の実態

翌三〇日は、一日中テレビが、
水害のことばかりでしたが、南
魚沼や、魚沼では、市内が水浸
しで、ほとんど交通止めで、動
けない地域があつて、朝の出勤
に二時間かかった人があつたり
しました。浦佐でも、新町地域
では、小さな川があふれてかな
り広い地域が水につかって消防



豪雨翌朝 7時の八木家からの風景。
自動車も浮かび屋根だけ見える。

署からのボートが活躍したとい
うことです。山崩れで道が通交
止めにもなっています。水が引
いてから行ってみると畑全体が
土砂をかぶっていて、ジャガイ
モが掘られた跡などは、一面に
土砂が覆って、ひび割れができ
ている状態でした。鈴懸、桐の
花は、少し高台になっているた
めに全く被害はなかったのです
が、唯一つ、「ひまわり」は、隣
が細い川で、水が上がりそうに
なつて、南魚沼市の障害福祉係
が、車で夢草堂に運んでくれて、
入居者三人は、グループホーム

桐の花で食事をし、鈴懸で入浴
し、夢草堂で一晩泊まりました。
鈴懸の隣にある鈴木要吉さん
の家は、車庫が少し低くなつて
いて、ここが桐鈴懸立上げの
ときの事務所になっていたの
ですが、この前を通っている下水
道が、水上がりして、車庫に入
りこみ、そこに立てかけてある
本棚の下のほうが水につかっ
ていました。

評議員の清水春代さん宅は、
床上一五センチの水上がり。夢
草堂の移築や、桐の花の建設な
どに力を発揮して、日常もこま
ごました修理や「雪ごつたく」
をお願いしている石田工務店は
仕事場が水につかって、木材が
流れていたとの話でした。

職員が二人床上浸水。やはり
二人が床下浸水。厨房の八木は、
床上一メートル。パトカーの到
来で外に出てみたときは、すで
に遅しで、逃げるのができず、
二階に避難。車四台が土石流に
浮かんでだめになったほか、一
階にあつたものが全部使えなく
なり、いちばん困つたのがトイ
レだったといえます。翌朝には
水がひけたけど、後は片付けが



家の中の様子。空き缶や容器が
浮かんでいます

とつても大変だったとのこと。
ヘルパーステーションの佐藤は、
その日鈴懸に泊まって、朝早く
に帰つたのですが、車を遠くに
とめて、腰まで水につかりなが
ら歩いて床上一五センチ浸った家
についたそうです。





天寿を全う

される



グループホーム桐の花
統括マネージャー 星野 淳子

八月一日、森澤タケさんが静かに一〇二歳の人生の幕を下ろされました。毎年夏に向かう時期に体調を崩されておりました。大好物の西瓜や、ご家族の面会が張りあい、いつも無事に乗り切り、新年を迎えておられたのです。

今年ご自分から「いつもと違う」とおっしゃいました。徐々に食事の量が減り、好物の西瓜もジュースに代わり、やっと少量飲む程度になりました。空腹の様子もなく、意識はとてもしっかりしておられました。時折、夢うつつの中で「さんよ節」にあわせ、手振りで踊っておられました。丸三時計店の甥子さん、盆踊りのテープを持参され、枕元にかけて差し上げまし

た。一日に、娘さん二人に看取られ、静かに旅立たれました。

一九日にはお堂（夢草堂）にご安置し、ご家族と一晚過ごされました。二〇日の午前中に、大好きな夜勤の関勝造さんのお三味線の伴奏で、入居者の皆さんと職員で「さんよ節」を歌い、見送らせていただきました。二〇日の葬儀にも、桐の花の入居者・職員・かのか（シーズー犬）とみんなで参列させていただき、最後のお別れでした。

息子さんより、お話を伺いました。

「何しろ、厳格な母でしたから、骨折でもしなければ桐の花に入所することもなかったでしょう。本当に良くしてもらい、感謝しております。桐の花の雰囲気はとても家族的で、何よりも職員のご家族が桐の花によく来ており、それがまた何ともいえない雰囲気でした。母が亡くなり、桐の花にお邪魔することももう



去年の三月三日（さんげつみっか）、多間青年団員と一緒に。

無くなるかと思うと、寂しい気がします。」（聞き取り）

また娘さんお二人からは、「お三味線と皆さんのさんよ節に感動しました。」「セレモニーホールにも見送りに来ていただき、本当に嬉しかったです。」「他の職員から、お二人が「自分も最後は桐の花にお世話になりました。」「とのお言葉も頂いたとのことです。」

「長寿芳香大姉」タケさんの戒名です。「長」の字は「タケ」とも読みます。この戒名を聞いた時、タケさんにぴったり

の戒名と感動しました。命の灯を最後まで燃やしつくし、人生を全うするとはこういうことだよと身をもって教えてくださった方でした。今頃は天国でご主人やご兄弟と幸せな語らいを楽しんでいらつしやることでしょう。本当にありがとうございます。

グループホーム一〇一歳の向上心

平成二三年六月八日
新潟日報「窓」 黒岩秩子（71歳）

高齢者のグループホームで暮らしている森澤さん、今年一〇一歳。三年前から何回か三途の川を渡りかけていました。そのたびに遠くに住む子どもたち、といっても八〇歳ぐらいの方が集まります。そうするとすっかり元気になる、を繰り返してきました。最近職員にこう言ったのです。「おれが死んだらそ、『よかった』といわれんように、これからいい女にならんば」職員は「もう充分いい女だて」と返したといえます。本当に森澤さんは、いつもにっこりの笑顔で皆を元気づけてくれていきます。でも私は言いました。「森澤さん、いい女になつて、言いたいことを言わないでいると、ストレスがたまるのでは？」「？」職員が解説してくれました。「森澤さん、ここにためておかないで言いたいことは言つてだつて」と胸をさすつていたのでした。（後略）

初めまして
「浦佐認定
こども園」です



浦佐認定こども園 園長 坂西美和子

「浦佐認定こども園」って？

浦佐認定こども園は、今年度四月より南魚沼市から(医)萌気会が指定管理を受けスタートした幼稚園と保育園を一体化した園です。丸い大きなドーナツ型の園舎は市内中学の学校林・越後杉一〇〇%で、木の香りに包まれ、冷暖房もペレットというエコハウスです。内側の廊下一周は一二〇mで、子どもも大人も駆け廻りたくなる造りです。私は「廊下は走るもの」と入園式に話しましたら、園児の父親から「私は子どもの頃、廊下は歩くものと教わってききましたが

：」との質問を受けました。しかし何と言ってもこの造りは走る方が自然：トラックの如く子どもは勿論、大人もつい走らずにはいられません。歩いている子を見かけると：具合が悪いのでは？と思うほどです。スポーツドクターの話によると、身体の発達段階からみても、正しい姿勢でしっかりと歩行できるのは就学後の頃からとのこと。幼児期、今の内にいっぱい、いっぱい走り廻らせた方がいい。子どもは大人が思っているより遥かに賢く臨機応変、走って良い・悪いの判断力は就学の頃にはしっかりと備わっていることでしょう。

こども園の定員は一八〇名。九月現在、生後二ヶ月～就学前の五才児まで、浦佐保育園・浦佐幼稚園、そして県内外、外国から(国際大学の関係で)集い、地域・国際色豊かな、且つ個性豊かな園児一九〇名の保育・教育を、英語教師・音楽講師、看護師等も含め職員五〇名で行っています。

「学童保育室」も併設し学童は五〇名前後です。年令差が大

きいほど危険性が増すと云われ年令別保育が多い中で、赤ちゃんから学童生徒まで、丸い園舎の仕切りのない空間で共に生活し、育み合っている園は希有、且つ貴重と、訪問される方々から感嘆されています。

他にも、未就園児が保護者の方と遊びにこられる「子育て支援ルーム」や、未就園児をお預かりする「一時預かり保育」も実施し地域の方々喜んでいただいています。支援ルームへは母親のみではなく、最近の流行語となつている「いくじい」：：おじいちゃんがお孫さんを連れ



各部屋はロッカーで仕切られ、いつでもとりはらえる。かくれが(→)もあり、机・椅子は全て木製。

で遊んでいられる微笑ましい風景も珍しくありません。

萌気会の指定管理が決まり即、市民からの要望と黒岩卓夫理事長の想いとも重なり、市内初の「病児後保育室」もオープンしています。医師の在中が義務付けられている病児保育は、今後の萌気会の課題：園の近くにもしも医療・介護施設が誕生したなら、連携をしてお互いにより機能アップが図れ、萌気会の理念「安心して子育てができ、老いても障がいがあっても、自分らしく暮らすことができるコミュニティ」づくりの幅が広がっていくものと、又一歩夢が膨らむ思いです。

こども園は上越線・上越新幹線の浦佐駅から徒歩一五分、浦佐小学校と大和中学校のすぐ前です。園舎横にはラッキーなことに市のサッカー場があり、日々芝のグラウンドを思いっきり園児たちは駆け回っています。そのグリーンで五才児は、ご近所にお住いのジュニアサッカーの監督(清水昭博マーシャ監督)から毎週「ちびっ子サッカー教室」で指導を受けています。

大人気の監督は、日常も頻繁に園に顔を出され、子ども達と触れ合い大活躍！正に心より信頼のおける心強く有難い応援団です。

四季折々、ホームグラウンドとさせていただいている広大な市民の憩いの場「八色の森公園」までも十五分、よって公園の一角に在るケアハウス鈴懸さんもご近所ということになります。素晴らしい立地条件の中、自然・人・物などの豊かな環境を活かし、生活感動体験から日々子ども達は生き生きと育まれています。

ご近所の「桐鈴会」ありがとう！
玄関前のお花を植えてある可愛いグリーンの木製プランター八個は、開園時に桐鈴会からお祝いにいただきました。木造の園舎・玄関前のうさぎの置き物に、とってもマッチしていて大好評です。

「八色の森公園」への行き帰り、桐鈴会の前の有難いお水を「美味しいね」と競ってごくごくといただいています。その時々に入居者の方や職員さんと

顔を合わせご挨拶。お年寄りの方は小さな子どもの姿を目にされると、どなたも目を細められ、こやかな表情で「可愛い・かわいい」と仰ってくださいます。又時には連絡なしで突然、「夢草堂」や「桐の花」の中まで入られていただき、施設見学やおじいちゃん・おばあちゃん達と「遊びにきたよ！」と自然体で関わらせていただけることはとても有難いです。

七月の七夕が近づく頃、桐鈴会からお声が掛かり、子ども達が出かけお年寄りの方々と一緒に「夢草堂」で歌ったりしながら七夕飾りを作ります。お年寄

りと子ども達との楽しい関わりはお互いに貴重な触れ合い体験です。その上、お土産までいただき子ども達は意気揚々とその楽しかった体験を、園内に駆け込み口ぐちに伝えてくれるのです。

学童保育の「大空クラブ」へは、秩子さんが入居者で折り紙の大得意な上村キヌ子さんをお連れいただいたこともありました。でも目が悪くなったからと折り紙をされず、昔の子どもの遊びの話しや、実際に石蹴りやお手玉などをしてくださいました。このようにかつてのこどもが今のこどもへ、昔の話しや遊びを伝承してくださるといって貴重な体験は、お年寄りにとっては生活の中の息抜き・張り・活力になられることでしょう。そして現在、お年寄りとの関わりが薄くなつて行く一方の子ども達にとつては又と無いチャンスです。今後、お互いの触れ合いを一層密にさせていただき、お年寄りの方から子ども達も職員も和やかな雰囲気の中で、昔の話や技などを伝承させていただけますことを願い楽しみにし

ています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。又投稿の機会がありましたら「いつも子どもを真中に！」をテーマに、こども園の生活、こどもの様子、園の催し・行事などをお伝えできればと考えています。



ドーナツ型の全園木製。木は70代の方が城内中学の時、植えた学校林の杉の木。



「熱中症・誤嚥性肺炎・意識の障害」勉強会に参加して

グループホーム桐の花

小澤 俊子

七月二二日、夢草堂で、桐鈴会の職員が参加し、黒岩先生の勉強会が開かれました。省エネが叫ばれる中、今年の夏は、例年よりも暑さが厳しく、熱中症対策の重要性が数多くのメディアでとりあげられました。

熱中症

私たちがお世話している入居者の方々は高齢で、体温調節に必要な発汗機能・腎機能などが低下している方が多いです。

また、外出して熱になれる機会も少なく、室温調節や水分補給などの危機回避行動を取りにくい方々でもあります。桐の花では、三回の食事とお茶の他、午前午後のお茶はもちろんのこと、入浴後の水分補給を大切にしています。入居者の方によつては、就寝前に居室にお茶のポットを用意する方もあります。

水分を取りたがらない方は、他の方法をいろいろと工夫しています。終末期の体力が低下した方は氷水などを、比較的喜ばれるようです。少量ずつでもこまめな補給やクーラーの温度調節、風通しをよくするなどの対応を行い、少しでも脱水症状を軽減できるよう努力をしています。

誤嚥性肺炎

嚥下機能が低下している高齢者は、食事摂取時にむせたり、嘔吐したりすることが多くあります。時には、自分の唾液を誤嚥し、肺炎を起こすこともあるのだそうです。肺炎を起こしているても、微熱程度で、肺炎の兆候が現れにくいのが特徴だそうです。

誤嚥性の肺炎を防ぐには椅子に座った時の姿勢、頭の位置が大切であり、食事の内容も重要になります。食べ物の大きさや堅さなどに注意が必要です。ご自分で食べられない方には、とろみのついた食材や一口毎に飲みこんだ事を確認してから、次の食べ物を紹介します。食欲や、体調などの全身の状態を把握す

る事も重要です。先生のお話の中で、三〇回嚥む事は消化吸収がよくなり、とても良い習慣であると話されました。実際に、これを実行されている入居者の方があります。若い頃から、嚥む習慣があつたそうで、高齢になつても尚、嚥むことは忘れな

いで習慣になつている。日頃から、食事はゆつくり時間をかけ、よく噛み、水分補給を心がける。こういった基本的な生活習慣が病気を遠ざける役目をするのだと勉強させられました。今後も、皆様のケアに生かせるよう努力していきたいと考えています。

新入居者紹介



ケアハウス鈴懸

井口 ヒデノ

私は浦佐生まれの浦佐育ちです。小学校・青年学校を卒業し、挺身隊で理研に勤めた後、二五歳で国鉄保線区勤務の人と結婚しました。三世帯一三人の大世

帯に耐えられず、半年で飛び出し、浦佐で二人、神奈川・相模原で二人、四人の子宝に恵まれました。

「亭主元気で留守がいい」と単身赴任の時は米軍基地勤務のアメリカ人宅でお手伝いをして働きました。私が派手な色が好きなのはその影響です。

豆腐屋でも働き、金を貯め、浦佐に家を建て、民宿を十六、七年間やりました。新婚旅行もしてなかった二人が民宿仲間と北海道旅行をして、やっと旧婚旅行が出来ました。

私にはあまり優しくなかった主人ですが、飲み友達の家が火事になり、いろいろな面倒を見たようです。主人が亡くなった際に、お礼と云って東京から二〇万円の香典をいただき、びっくりしたことを覚えています。人様のお役にたてていたんだと、とても嬉しく、一生忘れられません。

六〇歳からは好きな手芸や社交ダンスも習い、「さしこ」のベツドカバーは皆さんからほめられ、秋の文化祭に出品します。是非、見て下さい。

ある日、幼なじみで鈴懸に住む同級生（関 薫司さん）とバツタリ会いました。「起立、礼」と号令を掛けていた級長の癖が出たのか、「オレが死んだら部屋が空くから、老後はそこに入れ」と云われました。でも、級長が生きているうちに目出度く入居することが出来ました。ここには義兄嫁の井口フサも居ります。

手芸の上手な人、おしゃべり
上手な人と同じテーブルで食事が出来、毎日楽しく過ごせて今が一番幸福です。どうぞ皆さん、よろしくお願い致します。

（聞き手

編集委員 五十嵐 悦子）



デイケア「ほのぼの」で描いた貼り絵。貼り絵で鬼を動かした井口さん。

入居者コラム



郷愁をそそった茅葺き屋根

ケアハウス鈴懸

五十嵐 悦子



昭和四六年、パリに住む弟宅で『居候、茶碗をそつと出し』の生活をしていました。週末のお城めぐりに、小学一年生の甥を従者にお姫様気分でいろんなお城見学を楽しみました。圧巻は太陽王ルイ一四世が建てたベルサイユ宮殿。部屋の天井、壁は絵画で埋めつくされ、調度品

との色彩調和にうっとり。国王の寝室には、愛人が忍び寄る秘密の路も巧妙につくられていました。

フランスの辞書に、当時の宮廷で出す特別な肉料理の隠し味に日本の醤油が愛用されていた、とありとても驚きでした。

庭園は侘び寂びの日本と異なり、彫刻が立ち並び、幾何学模様の花壇の中に噴水。また、運河のスケールの大きさにさすが芸術の国と脱帽でした。

ルイ一六世王妃マリー・アントネットは絢爛豪華なベルサイユ宮殿に飽きると、奥座敷のプティ・トリアノン宮殿をこよなく愛されたとか？

広大な芝生の中に「愛の神殿」「王妃の劇場」。その周りに池や小川。池の辺りには茅葺きの田舎家。異国で見つけた茅葺きの屋根は、魚沼山麓に建つ父の生家と重なり、心落ち着く私の大好きな場所でした。

世界一の宝石ブルーダイヤモンド（現価値二〇〇億円）を身に付けた王妃、王族の浪費が庶民の生活を脅かし、パリの女性数千人が武器をもち「パンをよこせ」

とベルサイユ宮殿に乱入しフランス革命が勃発。王妃は隠れていた田舎家で捕らえられ牢獄へ。市中引き回しの上、ギロチンの露と消えました。

パリ市内に小さな牢獄を改装した喫茶店があり、国王・王妃の首を撥ねたギロチン、重かつたであろう錠付きの貞操帯が展示されていました。日本の殿方のお土産人気NO1、ミニチュア貞操帯が飛ぶように売れており、私も話の種に買ってあげばよかった。残念でした。

フランスのファッションは外貨を稼ぐためのもの。パリジャンは歴史を教訓として、ケチと思われるほど財布の紐は堅く質実剛健な暮らしをし、日照時間の少ないフランスでは健康管理のため、年間庶民で一カ月、金持ちで三カ月とバカンスをとっている国へかけ人生をエンジョイしています。フランス人から多くのことを学んだ滞仏八年でした。



昨年度の苦情処理解決について

平成二二年度に受け付けた主たる苦情は食堂の席替えについてでした。

鈴懸では三ヶ月毎に食堂の席替えをしていますが、複数の入居者の方から書面でご意見をいただきました。その内容は①Aさんのある癖が我慢できないので同じテーブルになりたくない、②Aさんとその仲の良いグループを固定して欲しい、③配膳や食事介助が必要な方と、いわゆる健常者のテーブルを分けて（厨房カウンター側と窓側）欲しい、というものでした。

苦情を寄せられた方々と施設長が面談するとともに、他の入居者（独力で配膳するために厨房側を希望する方と認知に問題のある方を除く）の方々、約二〇名をひとりひとり回り、意向を伺いました。

聞き取りの結果を踏まえ、理事長・施設長・職員で検討しました。①の訴えについては理解できるので配慮すべきである。②は当事者が望んでいないので、作画的に同じテーブルにする必

要はない。③については他の様々な理由で厨房側、窓側を希望する方がいらっしやるので、一つの基準で線引きして分けることはできない。以上のように判断しました。

そこで、席替えについては昨年春から次のような形で行っています。①席替えのくじを窓側と厨房側に分ける。②車椅子の方々の場所を決める（スペースの関係から）。③どの席でも構わないと考えている方々（三分の一）にくじを引いてもらう。④窓側、厨房側のどちらかに希望のある方から引いてもらう。その後、強い意見は出ていないように思われます。

「終の棲家をめざす」という理念を掲げる、このケアハウスには、外に働きに出るような健康な方から、日常の移動にも介護の必要な方や認知症の方など、様々な方が生活しています。全ての方が共存し、満足いく生活を送ることは難しいかも知れませんが、完全な分離や隔離をとらないような方向を模索していきたいと考えています。

（ケアハウス鈴懸 島村）

墓参り ミニコンサート



深田よしひろさんの

ピアノ演奏に酔う



深田夫妻の素敵な演奏に酔いしました。

深田よしひろさんは亡き深田久枝さん（鈴懸入居者、桐鈴会評議員）のご子息で、ジャズピアニスト。父母のお墓が浦佐にあるので、お盆の時期に墓参りにみえられると、帰りに立ち寄ってくださいます。

今回、姿を見せると両手の肘に包帯姿。どうも背中に湿布を貼っているようです。失礼ながら聞いてみると、墓参りの最中にズズズっと滑って転んだと

の事。ご本人は「親父が顔を見せないから怒ったんだ」とおっしゃっていました。

さて、転倒しながらも無事に開催された、このミニコンサートは今年で三回目になります。

奥様のキーボードも彩りを添え、『アメージング・グレース』、『デネシーワルツ』といった海外から『千の風になって』といった最近の(?)曲まで、ちよとしたメロディーがあれば、自在に曲を操ります。「何かリクエストは？」の声に、「ひまわり」の入居者、中澤さんが即座に出した『オーバー・ザ・レインボー』だって、即興的といえるかな、その場で如何様にも作り上げてしまいます。いつも、すごいなと正直、感じます。そして、素直に楽しいと思います。最後は『ふるさと』をみんなで歌い、お開きになりました。来年はもっと多くの方に聴いていただけるようプロデュースできたら良いな、と思います。

（「桐の花」の差し入れた終演後のスイカは美味でした！）

（ケアハウス鈴懸

島村 義彦）

鈴懸にサンルーム完成

ケアハウス鈴懸

施設長 広田 セツ子

鈴懸の二階、ヘルパーステーションの隣にサンルームが完成した。それまでは、洗濯機が隣りに二台あるだけの広いテラスだった場所だ（三六㎡）。

鈴懸で、介護保険のヘルパーサービスを利用した場合にヘルパーがお茶をだしてくれるサービスがある。ヘルパーステーションは狭く（二七㎡）、車椅子に乗った人が一人、二人いるともう誰も入る余地がない。それに比べ、隣のテラスは広々して、屋根もある。テラスを車椅子の入居者が気楽に来られるサンルームに改築できれば、車椅子を使っている人もそうでない人もいつでも来られるし、ヘルパーの目も届きやすい。

問題は資金である。改築するのにいくらかかるのか皆目見当がつかない。I工務店に見積も

りを立ててもらったら、広さにもよるが、四〇五〇〇万円という見積書が来た。そこで探し出したのが、赤い羽根共同募金の助成事業だった。開設後十年以上の施設に対して増改築費の一部を助成するというものがあつた。鈴懸は開設一年で、条件がぴつたりだ。

申請書には「年々増える車椅子の利用者、車椅子の生活でも、日中自室に閉じこもらずに集えるサンルームがあれば彼らのQOL（生活の質）は確実によくなる。ヘルパーステーションの隣に作るので、ヘルパーの目も行き届き安全にも考慮できる。鈴懸は日常の経費を賄うだけで、余力がなく、ぜひとも助成をお願いしたい」とサンルームの効用と、鈴懸が貧乏だということを真摯に訴えた。そして、この申請をしたことさえも忘れたころ、赤い羽根共同募金会から封書が届いた。「入居者用サンルーム助成採択」とあつた。二〇〇万円助成してもらえ！嬉しくて、すぐにヘルパーの佐藤管理者に伝えたら、「やったあー！」と一緒に喜んでくれた。

早速どんなサンルームを作るかと、考えたが、なかなか進まない。私は方向音痴と広さがわからないのと、色彩のセンスがないのとの三重苦なので、一部屋をどのように設計するか、壁やカーテンの色を何色にするかなどは考えただけで頭が痛く



広々としたサンルーム

なつた。これはヘルパーたちのお知恵を拝借することにした。そうしたら、立派な設計書ができた。壁を取り払い、廊下側には新しく洒落た窓をつくり、ピンク色のカーテンをつけるなど。満載のお知恵を設計書に書いて先の工務店に相談したら、すぐに新しい見積書がきた。予

算は当初の倍、一〇〇〇万円にも膨らんで、設計は最初からやり直しになってしまった。

私はいらぬ物を削るとか余計なもの捨てるというのは得意で、広さと収納だけを考えてごくシンプルなサンルームをお願いした。工事は一月ほどで済み、八月一日にお披露目のお茶会を催した。サンルームが入居者と職員をつなぐ、居心地のいい空間になることを祈っている。鈴懸に助成を決めて下さった赤い羽根共同募金会と、ヘルパーサービスを利用する入居者の生活を物心の両方から支えて、汗と涙にまみれて仕事に励んでいるヘルパーに心から感謝したいと思う。

この度、赤い羽根共同募金の助成を受け、ケアハウス鈴懸の二階にサンルームを整備しました。これにより、車椅子の方でも自由に集えるようになりました。これからも工夫を凝らし、サービスの充実に役立てたいと思います。

募金にご協力いただきました県民の皆様へ感謝申し上げます。ありがとうございます。

桐鈴川柳

▼神の顔 此の世に見えぬが
すがりた

▼天災の つづく今日 (こんにち)
迷い道

▼(：：久し振りの里帰り)
古里の まちを歩けば
知らぬ顔

(わからんばー)

■ドロクサイ

ドジョウがにげて

にしきごいいれ

■エコエコと

まねいているこねこに

こたいたい (ママ)

(井口 末作)

▽したり顔

苛めの命 (ママ)

むじなかな

(秋風)



桐鈴会 12周年記念行事

岸本祐有乃ピアノ & 指揮 with JOY三中
(城内中・大巻中・大和中吹奏楽部)

日時 10月16日(日) 午後2時開演
会場 コミュニティホール さわらび
入場料 大人 500円
(小中高生及び入居者とその家族は無料)

- (曲目)
- ・人生のメリーゴーランド
 - ・行進曲「雷神」 以上 大和中学吹奏楽部
 - ・栄光の架橋 (ゆず)
 - ・君に届け (flumpool)
 - 以上 大巻・城内中学吹奏楽部
 - ピアノ曲・子犬のワルツ (ショパン)
 - ・トロイメライ (シューマン)
 - ・エリーゼのために (ベートーヴェン) その他

チケットのお求めは・・・
ケアハウス鈴懸、萌気園浦佐・二日町診療所
お問い合わせ
ケアハウス鈴懸 Tel 025-780-4118



□立ち上がる 世界ブランド
種牡蠣日本

□リーダーは 密かに叱り
褒めは公

□賢きは 勉強不足と 思う人
(桜梅桃李)

(桜梅桃李)

◆久々の 友の顔みな老い
安堵する

安堵する

◆欲しいもの 少なくなつて
歳(とし)を知る
(薫風)

(薫風)

◇(故里(クニ)を思う)

ベランダに 今日大きく
油蟬の声

◇つがい鳥

飛び行く空に 月細し
(田んぼの蛙)

(田んぼの蛙)

編集後記

この夏の目玉は、娘と行った
コンサートだった(今はライブ
というらしい)。帰りは夜中にな
るので、その間の長男の見守り
と世話をヘルパーさん、夫と連
携してもらって、出かけること
ができた。

会場についても、時計を見て
は今頃は家で何をしてるかとか
気になった。開演近くなると携帯
電話をオフにしなくてはならず、
これからの二時間余り何も連絡
を受けとれないのがとても不安
だった。今頃は夕食かな、おむ
つは漏れてないかな、咳き込ん
でないかな、騒いで、経管チュ
ーブは抜かないかな。いろんな
取り越し苦労をする。

でももう密室に入ってしまった。
心配しても始まらない。こ
うなったら楽しむだけ楽しもう
：と思いついたのは、開演後三
〇分くらいだったか。

それからは、一八歳くらいに
戻って?この夏一番の汗だくで
娘顔負けの大騒ぎをした。腹を
くくったおばさん、恐るべし。

(評議員 井口 美賀)

